

4. 3 成果の社会的還元（地域貢献）について

地元定着と地域人材としての能力獲得を目指す本事業によって育成された学生達は、学生を採用する企業・団体にとって大きな戦力となるであろう。前述した「地域連携・創生演習」のPBLは奈良県内の企業や団体（以下、4社という）が抱える経営課題に学生が解決策を提案するものであるが、授業内での取り組み成果の段階で、すでに学生達の解決提案は高い評価を得ることができており、事業成果の社会的還元を進めることができている。

学生は解決策を作成する際に、①奈良県の経済的な現状を分析する（例えば、観光業では宿泊を伴わない日帰りツアー、北和エリアのみを観光する等）、②各企業の店舗を現地視察して店長や店員にインタビューをして問題点の洗い出しを行うことで奈良の観光客の購買行動や店舗利用の実態を分析する、③グループで解決策を実施して得られた知見を元に解決策を再考する等を行う。これらにより、学生チームは4社の現状や課題を知り、各社の担当者と深くコミュニケーションを取り、解決策の検討を通して、企業の業務を体験できる。すなわち、学生達にとっては、解決策の検討を通じて、実際に社員として働くことの疑似体験となったのである。

では、解決策は4社にどう評価され、社会的還元（地域貢献）になったのか。以下は、最終プレゼンテーション終了後に4社からなされた講評である。

① 奈良交通株式会社

各学生チームに出題した課題の難易度はやや高かったと思うが、弊社担当者の意図・課題に一所懸命取り組んでいることが伝わってきた。大学1～2年次とは思えないレベルの高さに驚いている。

大学生らしいフレッシュな意見、女性ならではの目線で忌憚のない率直な提案をたくさん聞くことができた。将来的には、何らかの形で店舗運営に反映させていくつもりである。企業の課題解決を大学のカリキュラムの中で検証、提案してもらえることは、稀有な機会であった。今後も地元の大学と、そこで学ぶ地域の学生との接点は大切にしていきたいと考えている。このような取り組みはぜひ続けてもらいたい。

② ホテル葉風泰夢

解決策には弊社が採用可能なアイデアがたくさんあり、今後、店舗でも実際にどうすれば解決策を実現できるのかを考えていきたい。提案は各チームとも分かりやすいもので、中間報告時にコメントした内容を活かして解決策を改善・改良、修正できていた。特に最終報告時の提案には、新しくオリジナルのアイデアがあり、インタビューや現地調査を通じた現状分析を行い、弊社がこれまで気づかなかった箇所に対する指摘等もあった。

③ 社会福祉法人ぷろぼの

中間報告でのアドバイスを十分に活かして、熱量のある大変すばらしい課題解決策のプレゼンテーションだった。各チームの提案は分かりやすく、当方の事業内容に照らしても新規性があり、これまで気づかなかった箇所に対する指摘もあった。大学の課題解

決型学習に参画したのは今回が初めてだが、学生の考えや意見を知る貴重な機会であり、学生とディスカッションできたことも有益であった。

④ 一般社団法人吉野ビジターズビューロー

全体的な評価として、課題解決策でRESASを使ってきちんと分析できていた。RESASが使えることは公務員に求められるスキルでもあり、熱心に取り組んだことは評価できる。総合的によい発表をした。1～2年次だと聞いているので、今回の解決策はPDCAというPなので、今後の学びのひとつとしてD（フィールドワーク）を実施し、C（各チームでチェック）を通して、A（今後のさらなる学びに向けた行動）をしてもらいたい。



写真 31・32 奈良交通株式会社への最終プレゼンテーション



写真 33・34 ホテル葉風泰夢への最終プレゼンテーション



写真 35・36 社会福祉法人ぶろぼのへの最終プレゼンテーション



写真 37・38 一般社団法人吉野ビジターズビューローへの最終プレゼンテーション

以上の 4 社の講評から、学生達の解決提案は奈良県内の企業・団体より高い評価を得ることができたと考えられる。これらの学生達が卒業後に地域人材として定着することにより、更なる社会的還元が期待される。